

「緩和ケア」の語彙が、市民権を得るのはいつの日...

在宅緩和ケア支援センター“虹”とHP作成にボランティアとして少し関わっているので、専門家といわれる方や、がんを患う人に直接関わっている方の文章等を目にする機会もある。そうした中に、まだ「タ - ミナルケア」という語彙を目にし、少し気になっている。

緩和ケア関係では、しばしば「末期がん」という語彙を耳にするが、「末期」とは、いわゆる医療サイドから診た症状に関する表現法であり、当人にすれば、いかなる症状、事情であれ、「生きる」ということでは、末期云々ということではない。それ故、「末期」の表現はなるべく使用しないようにしていると聞いたことがある。

こうした意味からは、「タ - ミナルケア」という表現も、一考を要するのではないだろうか。

日本の一般的な使い方としての駅をイメージする「タ - ミナル」は、「終着駅」だけでなく「乗り換え駅」も意味しているにも拘わらず、「タ - ミナルホテル」の表現が「終着」を連想されることから、利用者の心情を考慮してホテル名が変わったことは、既にみなさんの承知の事実である。

もし、利用者の心情に配慮してホテル名を変えたのであれば、「末期がん」同様、「タ - ミナルケア」の表現も変えた方がいいのではないだろうか。

社会一般には、まだまだ緩和ケアについての理解が十分でない現状だけに、当事者が「タ - ミナル」の語彙から何を連想し苦慮するか、生きる気力が萎えるかもしれないこと等に想いを馳せ、まずは、がんを患い、療養する方々に接している方々に、また、この問題に取り組んでいる方々に、語彙の使用のあり方については、十分に意識して欲しいと思う。まだ、「タ - ミナルケア」という授業科目名を使用している公立の看護師養成校もまだあるようで、残念。

既に、雑誌の名称を「タ - ミナルケア」から「緩和ケア」に変えた専門誌も出てきているし、「緩和ケア」の語彙が次第に市民権を得て行くであろうとってはいるが.....。

( 2005 年 4 月 9 日 記 )